

Management Club Report

Jun.2022/Vol.234

Monthly Opinion 《見えないものに宿る価値》

聴きなれない言葉ですがネガティブ・ケイパビリティ(negative capability)という英語があります。経営者哲学を研究する新潟産業大学特任教授の大平浩二氏の著書『見えないものを見る力』の中で出会いました。ネガティブは既に日本語化しているほど「消極的」とか「後ろ向き」といった意味で通っています。ケイパビリティはあまり一般的ではないというより、私が無知なだけですが「能力」を意味するようですので、ネガティブ・ケイパビリティとは「消極的な能力」となり、あまり持っていたくはない能力に感じます。

しかし、リーダーズ英和辞典を引きますと、negative capability には「消極的な能力」との訳が書かれた後に次のような解説が付されています。「Keats が弟にあてた手紙の中で用いたことば；性急に結論を求めないで不確実な状態のまままでとどまれる能力；偉大な詩人はこの能力を身につけているとKeatsは考える」蛇足になりますが、Keats(キーツ)とは19世紀イギリスを代表するロマン派の詩人ジョン・キーツのことです。

大平氏はネガティブ・ケイパビリティという言葉について「元来は文学作品や精神分析の用語として使われていることを記した後、「この言葉が示しているのは、成果に至るまでの長くて苦しい道筋に耐えることや、その後に来る光明を表している」とし、成功している企業経営者の多くが、成果としての数値的な実績を形成している“モノの価値”とは別に持っている、外からは見えない能力であるとしていました。

歯科医院経営者もまったく同様であろうと思います。成果となって表れる医療収入の高さ、自費診療収入比率の高さ、スタッフの定着率や労働生産性の高さといった数値に表れる効率の良さなど、結果としての財務的分析数値にばかり目が行きがちですが、そこに至るまでの長い道のりや、その道の方向性を曲げることなく貫いてきた信念、そこに共感し結束を高めてきたスタッフたち、その人たちを守るために利己を捨て耐え抜いた努力。それらは当にネガティブ・ケイパビリティそのものだったのです。

1

開業 1 年で挙げた成果を支えたもの

開業 1 年で固めた結束の成果

コロナ禍真っ盛りの 2011 年 4 月に新規開業して 2 年目を迎えた歯科医院があります。何と新規開業時に最も求められる“集客活動”が困難をきたすであろう